（第3種郵便物認可）

本條秀太郎

独奏コンサート
「Ｂｅａｄｓ 音の祈り」

三味線で平和奏でる

稽古に励む本條秀太郎
＝東京都世田谷区で

民謡や端唄の三味線奏者で作曲家の本條秀太郎が二十六日、東京都新宿区の東京オペラシティリサイタルホールで、「Ｂｅａｄｓ（ビーズ） 音の祈り」と題した独奏コンサートを開く。本條は「国と国、人と人など〝つながり〟という意味をビーズに込めた。平和への祈りも感じてほしい」と話す。

本條は三味線の第一人者として、民謡を題材にした独自のジャンル「俚奏楽」を創始するなど、斬新で多彩な活動を展開している。その第一人者が着目するのがビーズ。仏教の数珠、キリスト教のロザリオ、イスラム教のミズバハなど、世界中で祈りの道具として使われている。環状になったビーズに「つながり」を見いだす本條は「三味線も大陸から伝わってきたように、楽器も世界でつながりを持って今日に至る。人同士もできるだろう」と話す。

「音楽で世界が結びつく」

ステージで披露するのは、いずれも現代音楽の「Ｓａｗａｒｉ」（藤倉大）、「線Ⅲ」（細川俊夫）、「臨界域」（一柳慧）、「ｈｏｎｊｉ～Ⅲ」（坂本龍一）。複雑な作品ばかりだが、その極意を三味線一本で表現する。「三味線の新たな可能性を追求したい」と意欲を示す。演奏力で「ビーズ」「祈り」「つながり」といった今回のテーマ群を浮き彫りにしていく。

海外公演も豊富な本條はその経験から「各国の奏者とも分かり合い、みんなで楽しんで音楽と向き合ってきた」と実感を寄せ、「三味線は西洋楽器との相性も悪くない。音楽によって世界が結び付くことができることを想像してほしい」と強調する。

傳燈樂舎＝㊫03・3303・5180。

（藤浪繁雄）